

(様式6-1)事後評価シート

建設部

砂防課

事業名	砂防			路河川名等	林沢				
番号	4	市町村名	麻績村	箇所名(ふりがな)	麻績(おみ)				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	当該地域は、風化の進行が早く脆弱な第三紀層の砂岩と泥岩からなる地質であるため、溪岸侵食が著しく、溪床には不安定な土砂が堆積している状況であった。また、下流に人家や重要施設が多く立地しているため、土石流の発生時には甚大な被害が生じる恐れがあった。このため、安全で安心して暮らせる地域づくりを推進するため、砂防事業を実施することとした。								
事業目的	砂防堰堤の設置により、下流域に立地する、人家124戸、麻績村役場(災害時拠点)、JR篠ノ井線(重要交通網)、国道403号(震災対策緊急輸送道路(第一次))、主要地方道丸子信州新線(震災対策緊急輸送路(第二次))、麻績小学校(避難施設)、麻績保育園(災害時要援護者関連施設)等を土砂災害から守り、安全で安心して暮らせる強い地域づくりを推進する。								
事業概要	当初工期	H14～H20	費用対効果	15.1	事業費(千円)		財源内訳(千円)		
	最終工期	H14～H20	完了後経過年数	6	上段:当初/下段:最終	国庫	その他	県債	一般財源
	当初計画内容(主な工種)	砂防堰堤工 3基 H=12m L=92m H=14m L=50m H=12m L=50m			860,000	430,000	-	387,000	43,000
	最終事業実績(主な工種)	砂防堰堤工 3基 H=12m L=91.2m H=10m L=44m H=10.5m L=55m			582,100	291,050	-	262,000	29,050
事業期間の延長、短縮理由と分析	当初計画どおり実施した。								
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	土石流を効果的に捕捉する堰堤位置の配置検討を行うとともに砂防堰堤タイプの比較検討を行い、コスト縮減に努めた。 (現地発生土砂を利用した砂防堰堤を選定)								
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成 D:達成したとはいえない)							評価	
	直接的効果(定量的・定性的)	砂防堰堤設完成后、異常豪雨が数度発生しているが、保全人家等への土砂流出はない。					A		
間接的効果(定量的・定性的)	砂防堰堤の設置と同時期に土砂災害警戒区域等の指定を平成19年3月に行い、土砂災害に対する地域住民の意識の向上と災害に強い地域づくりを推進した。								
②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化	事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)							評価	
	大きな影響はない。							B	
③施設の維持管理状況	施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)							評価	
	平成25年度に砂防施設の点検を実施した。 今後、現在策定中の管理計画に基づいて定期点検を実施し、平時から砂防施設の機能の確保を図る。							B	
④地域住民等の評価	地域住民等の評価(A:評価が高い B:中程度の評価 C:評価が低い)							評価	
	区長への聞き取りの結果、砂防堰堤があることで安心感が得られるとの回答を得た。							A	
⑤事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況(A:貢献度が高い B:貢献している C:特になし)							評価	
	役場、小学校等の行政機関や避難所の保全を図ることで災害に強い地域づくりに貢献している。							B	
改善措置の必要性	改善措置の必要性はない。								
今後の取り組み及び同種事業への活用と課題	近年、集中豪雨による土砂災害が多発する中、同事業の必要性が、住民から認知されている。今後も災害に強い地域づくりとして、ハード・ソフト両面から土砂災害対策を進める必要がある。								
部意見	保全対象には、多くの重要施設があり、土砂災害に対する安全度の向上が図られた。			行政改革課意見		土石流に対する安全性の向上が図られ、一定の効果が認められる。			

事業名	砂防		路河川名等	林沢	
番号	4	市町村名	麻績村	箇所名(ふりがな)	麻績(おみ)

【事業計画時の写真】



上流荒廃状況



【事業完了後(現況)の写真】



コンクリート堰堤 H=10.0m L=44.0m



コンクリート堰堤 H=10.5m L=55.0m



ダブルウォール堰堤 H=12.0m L=91.2m